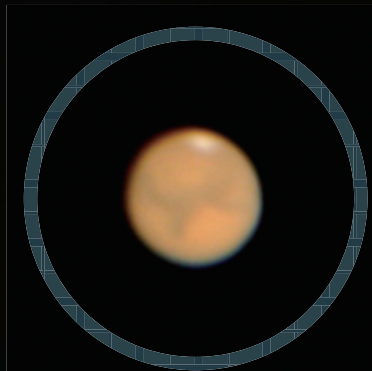


② 火星が大接近だと何かいいことあるの？

火星が大接近のときは、火星と地球の距離が近いので、火星がとても明るく見えます。明るい星と言えば金星(約マイナス4等級)や木星(約マイナス2等級)が有名ですが、大接近の時の火星は、木星を上回るマイナス3等級に達し、金星に次いで明るく空で輝く星になります。しかも、火星は非常に目立つオレンジ色に輝いているので、とても存在感があります。

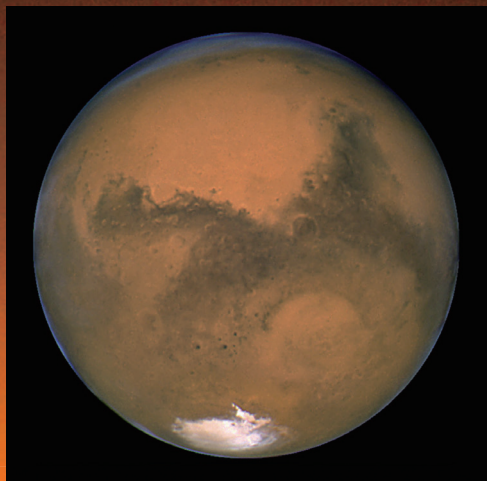
また、火星は、望遠鏡を使うと、表面の模様を観察することができます。ですが、火星はもともとのおおきさが地球の約半分と、割と小さめの惑星なので、普段は望遠鏡を使っても小さくしか見えません。それが大接近の時には、普段よりは大きく見えるので(と言っても、木星などに比べるとやっぱり小さくしか見えないのですが)、模様も観察しやすくなります。



2003年の火星大接近の時の火星の写真。
大阪市立科学館50cm望遠鏡にて撮影。

③ 火星には季節がある

火星には、地球と同じように、春夏秋冬の季節変化があります。火星の北極や南極には氷があり、それぞれ冬になると大きく広がり、夏になると溶けて小さくなります。今回の火星大接近では、火星の南半球が春から夏に移り変わる季節に大接近になりますので、望遠鏡で観察を続けると、火星の南極の氷が、数か月かけて小さく(見えづらく)なっていくことが分かるはずです。



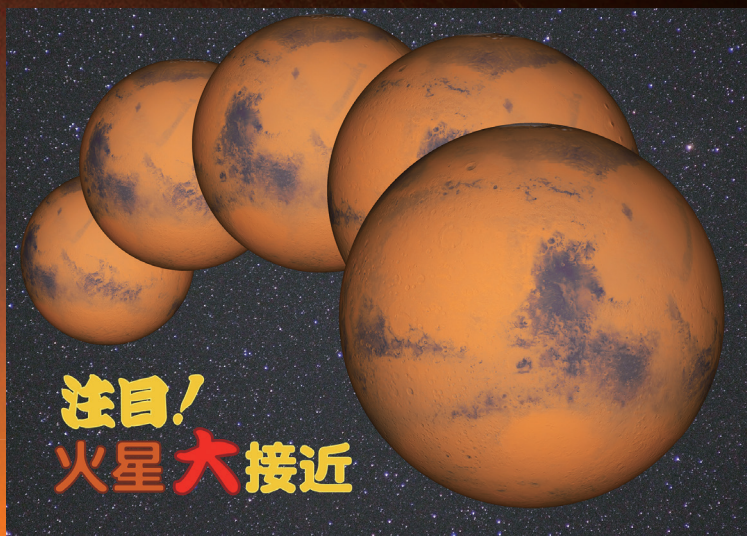
ハッブル宇宙望遠鏡による火星の写真。火星の南極の氷が大きい時期の写真。
(C) NASA/ESA, J. Bell (Cornell U.) and M. Wolff

④ プラネタリウムで火星大接近を知ろう

地球と火星の距離は、ある日突然変化するわけではありません。毎日少しずつ近づいていき、また毎日少しずつ遠ざかっていきます。プラネタリウムでその時間を縮めて見ることで、火星が接近するんだ!ということを実感していただけたらと思います。

また地球から見た火星だけでなく、火星探査機が捉えた火星の詳細な姿も紹介します。

※料金・投影時刻などの詳細は、ホームページをご覧ください。



学芸員のおススメコレクション

大阪歴史博物館 享和壬戌撰河大洪水絵図

享和2(1802)年の7月から8月にかけておこった淀川大洪水のようすを描いた絵図です。冒頭の部分に洪水の概要のほか、水害の被災者に対する救援・救護についても記しています。川筋の水害については、天満橋・京橋付近から守口・点野(しめの)付近までの水損の状況を描いています。写真左側には一部流失した天満橋、中央下の橋は京橋で、壊れていません。その上の網島に渡る備前島橋や右側の野田橋は流失しています。網島の大長寺(だいちょうじ)北側の堤防は溜まった水を大川に排水するため、人工的に切り開かれているようですが、はっきりと描かれています。(大阪歴史博物館副館長 伊藤廣之)



享和壬戌撰河大洪水絵図(部分)
嘉永6年3月 大阪歴史博物館蔵

※今回紹介した資料は、大阪歴史博物館8階の特集展示「大阪を襲った淀川大洪水」で6月25日(月)まで公開中です。

開館時間/9:30~17:00(展示場入場は16:30迄) 休館日/火曜日

大阪歴史博物館 ●所在地 〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32 ●TEL 06-6946-5728 ●FAX 06-6946-2662 ●アクセス Osaka Metro 谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②号・③号出口 大阪シティバス「馬場町」バス停前 ●ホームページ <http://www.mus-his.city.osaka.jp/>

大阪市立の博物館・美術館・動物園
Osaka Museums
<http://www.ocmo.jp/museums/>



- 大阪市立科学館
- 大阪市立美術館
- 天王寺動物園
- 大阪城天守閣
- 大阪市立東洋陶磁美術館
- 大阪歴史博物館**
- 大阪新美術館建設準備室
- 大阪市立自然史博物館
- 大阪くらしの今昔館
- 大阪文化財研究所